

<b>〔科目名〕</b> 実証経済分析	<b>〔単位数〕</b> 2 単位	<b>〔科目区分〕</b>
<b>〔担当者〕</b> 富岡 淳	<b>〔オフィス・アワー〕</b> 時間: 随時 場所: メール	<b>〔授業の方法〕</b> 講義および実習
<b>〔科目の概要〕</b> <p>授業科目「経済統計」、「統計学」、「計量経済学」で学んだ内容およびその発展的トピックに関する講義とコンピュータ実習を行う。主眼は現実社会のさまざまなデータを対象とした実証分析の実習を行うことにある。</p> <p>教科書と配布資料を利用する。授業で取り扱う主な内容は回帰分析である。</p> <p>データ分析には表計算ソフト Excel および無料の統計解析ソフト gretl を用いる。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>2年次科目「統計学」「計量経済学」は、理論の学習に重点が置かれていた。統計学や計量経済学の理論は元来、実証分析を目的として構築されてきたものである。その意味でも現実のデータを用いた実証分析の学習は不可欠である。また、理論の理解は自らの手でデータに適用することで格段に堅固になる。</p> <p>計量経済学は、マイクロ経済学やマクロ経済学はもとより、労働、産業組織、金融、公共経済学などの応用分野においても活発に利用されている。その目的の一つは経済理論の検証であり、もう一つは政策の評価である。とくに、各分野において具体的かつ現実に即した政策提言を行うためには、数量的な分析が欠かせない。もちろん、世の中に流通している政策に関する議論をクリティカルに吟味する上でも有用である。</p> <p>統計分析をマスターしていることは、オリジナルな卒業論文を執筆するために大いに役立つ。また、現代社会において、データ分析のリテラシーは仕事をしていく上で将来にわたって大きな強みになる。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>表計算ソフト Excel および統計解析ソフト gretl を使って、正しく効率的に様々なデータ分析を行えるようになること。データ分析を通して、統計学、計量経済学の理解を堅固で実践的なものとする。</p>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>時間管理と発声を改善する。履修者の理解度を確認しながら授業を進めるよう留意する。</p>		
<b>〔教科書〕</b> <p>田中隆『計量経済学の第一歩』日本評論社、2015 および教員配布資料</p>		
<b>〔指定図書〕</b> <p>加藤久和『gretl で計量経済学』日本評論社、2012 年          加藤久和『やさしい計量経済学: プログラミングなしで身につける実証分析』オーム社、2019 年          唐渡広志『44 の例題で学ぶ計量経済学』オーム社、2013 年          白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの計量経済学(第2版)』日本評論社、2007 年          滝川好夫・前田洋樹『経済学のための Excel 入門』日本評論社、2006          豊田利久・大谷一博・小川一夫・長谷川光・谷崎久志『基本統計学』第3版、東洋経済新報社、2010</p>		
<b>〔参考書〕</b> <p>Jeffrey M. Wooldridge, <i>Introductory Econometrics: A Modern Approach</i>, South-Western Pub, 7th ed, 2019</p>		
<b>〔前提科目〕</b> <p>2年次科目「統計学」と「計量経済学」の内容の理解があると大変有利である。</p>		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>提出物、期末試験で評価する。なお、出席・授業参加(発言や質問)は加点要素となりうる。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>提出物(4割)、期末試験(6割)の合計を100点満点基準に換算する。点数とグレードの対応は以下の通り。</p> <p>80点以上 A  80点未満 70点以上 B  70点未満 60点以上 C  60点未満 50点以上 D  50点未満 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>実習の目的の一つは、実習を通して統計学・計量経済学の理論を具体的にイメージ豊かに理解し、自分のものとする  ことである。この点を常に意識しながら、何よりデータ分析の楽しさを実感することを望む。</p> <p>コンピュータ実習を中心とした授業になるので、必ず出席し、勤勉に実習や課題に取り組むこと。</p> <p>実習では、教員が提示するデータのほか、教科書の数値例も用いるので、必ず教科書を持参すること。</p> <p>この授業の内容は積み上げ式の性格が強く、曖昧な点の理解を後回しにすると手遅れとなる可能性が高い。内容の  理解に曖昧な点があれば、時間をおかずに遠慮なく質問してほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし</p>	
<p>授業スケジュール(履修者の理解度・授業の進度によって変更の可能性はある)</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): インTRODakション/母集団と標本、統計的推論/相関と因果/和記号の性質</p> <p>教科書第1、2章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 確率論の復習 1</p> <p>教科書第3章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 確率論の復習 2</p> <p>教科書第3章</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 統計的推論の復習 1</p> <p>教科書第4章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 統計的推論の復習 2</p> <p>教科書第4章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 単回帰分析 1</p> <p>教科書第5章</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 単回帰分析 2</p> <p>教科書第5章</p>

第8回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析 1 教科書第6章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析 2 教科書第6章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 重回帰分析 3 教科書第7章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法 1 教科書第8章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 操作変数法 2 教科書第8章
第13回	テーマ(何を学ぶか): パネル・データ分析 1 教科書第9章
第14回	テーマ(何を学ぶか): パネル・データ分析 2 教科書第9章
第15回	テーマ(何を学ぶか): マッチング法/回帰不連続デザイン 教科書第10、11章
試験	